

震災遺構仙台市立荒浜小学校の学校防災学習での活用アイデア

1 教科・単元名

総合的な学習の時間（第5学年）

「わたしたちの地域と自然災害 ～震災遺構が語りかけるもの～」

*第5学年 社会科の内容（5）「我が国の国土の自然環境と国民生活」、理科の内容B（3）「流れる水の働きと土地の変化」、特別活動の「健康安全・体育的行事」等との合科的な指導を図る。

2 学習のねらい

東日本大震災における身近な地域の被災状況を調べることで、地震や津波など自然災害の危険性と、そこからの復興や防災・減災に向けた取組について理解する。また、荒浜小学校の子どもたちと地域住民の方々とのつながりや故郷への思いを知ることで、自分たちが暮らす地域と自然災害との関係を見直し関心を高める。

3 指導計画（全 15 時間）

（1） 3. 11（東日本大震災）について知る。（3時間）

- ・東日本大震災の発生当時の様子や被災状況について概要を知る。
- ・宮城県内、仙台市内の被災状況と復興や防災・減災に向けた取組の概要を知る。
- *映像、写真、統計資料などを適宜提示する。また子どもにも分かりやすい書籍として、『地震・津波防災のひみつ～東日本大震災を忘れない～』（「学研まんがでよくわかるシリーズ 地域のひみつ編」宮城県，学研プラス 2018年）などを提示する。
- *本人や家族・親族が東日本大震災で被災した児童について、可能な限り実態を把握すると共に、提示する資料の内容や授業の進め方などには十分に配慮する必要がある。

（2） 仙台市立荒浜小学校について知る。（3時間）

- ・震災当時の荒浜小学校の写真などを通して、荒浜地区の被害の状況を知る。
- ・荒浜小学校や住宅基礎が震災遺構として保存されていることを知る。
- ・教師が提示した「どうして荒浜小学校を残したのだろうか？」という問いについて、自分の考えを持つ。
- *資料として仙台市が行った「荒浜地区の震災メモリアルに関するアンケート調査」の結果等を提示する。保存に対して消極的な意見もあったことを知り、その理由を考えさせる。

（3） 現地学習とそのまとめ（4時間）

- ・オリエンテーションを通して、見通しを持つ（現地学習の流れの把握、めあての設定など）。
- ・荒浜小学校及び荒浜地区での現地学習を通して、震災当日の様子や津波被害の実態、地域の方々の生活の様子などについて知る。
- ・現地学習を振り返り、気づきや問いを共有する。
- ・震災遺構に込められた思いや願いについて考える。

（4） 学習のまとめと発表（5時間）

- ・今後の研究の進め方について知る。
- ・（1）～（3）を踏まえて個人の研究テーマを設定する。

- ・それぞれ計画を立て、調査・研究活動を行う。
 - ・研究の成果をレポート、新聞、プレゼンテーションなどの方法でまとめる。
 - ・発表会を通して研究の成果を交流し、学習のまとめをする。
- *児童が設定するテーマによって新たに資料を提示したり、ゲストを招聘したりする必要がある。
- 1か月程度の余裕のある期間設定をし、中間発表を行うなど工夫しなくてはならないだろう。

4 現地学習の展開

(1) 現地学習のねらいと大まかな流れ

スタートは深沼海水浴場とし、歩いて荒浜小学校へ向かう。これは津波が通過したのと同じ方向に歩いていくということである。事前学習で見た震災前後の風景を比較した写真（[資料1](#)『荒浜の思い出』せんだい3.11メモリアル交流館パンフレット 等）を想起する子どもたちは、まばらに生えるマツの木、残された住宅基礎、そしてあらゆる建物がなくなり更地と化した風景などから、津波の勢いの凄まじさや被害の甚大さを感じると思う。

しかし、子どもたちに目を向けさせたいのはそれだけではない。実際に歩いてみると、津波で亡くなられた方への思い、復興への決意、そして地域の方々の荒浜地区への愛着を読み取れるものが数多くある。そうしたものと出合わせることで、子どもたちの中には「こわい」とか「かわいそう」だけではない、別の問いや感情が生じるのではないかと考える。そして、それが荒浜小学校を見学する際の観点の焦点化と、見学後の個人での探究的な学習のテーマ設定にもつながるのではないかと考える。可能であれば地域のことをよく知る方に、語り部として案内をお願いできたらと思う。

荒浜小学校は津波の被害状況を伝えるだけでなく、教室の黒板や掲示物等も当時に近いまま保存されている。子どもたちは否応なく、そこで学んでいた自分と同年代の子どもたちの姿を想像しながら校舎内を巡ることになるだろう。

以上の現地学習を通して得た気付きや問いを、帰校後に共有する。教師が最初に提示した「どうして荒浜小学校を残したのだろうか？」という問いへの自分なりの回答を持ち、震災遺構に込められた思いや願いについて考えを巡らせる子どももいるだろう。それらを基に各自が追求したいテーマを設定し、個人での探究的な学習へと展開していきたい。

(2) 当日のタイムテーブル

2学級ずつ実施したい。一方の学級は「深沼海岸→荒浜小学校」、もう一方は「荒浜小学校→深沼海岸」というようにローテーションを組むのが妥当ではないかと考える。

タイムテーブル（「深沼海岸・住宅基礎遺構→荒浜小学校」ルートの場合）

	バス内…	緊急時の対応について確認（避難施設としての荒浜小）
9：10	深沼海岸・住宅基礎遺構着	… <u>語り部の方との出会い</u>
9：20	荒浜小学校に向けて出発	*資料として 周辺地図（ 資料2 ）を持たせる。
		深沼海水浴場 → 荒浜慈聖観音、八大龍王神社 → モニュメント「荒浜記憶の鐘」 → 住宅基礎遺構 → 里海荒浜ロッジ → 貞山堀 → モニュメント「荒浜の歴史」 → 浄土寺 → 荒浜小学校
10：20	荒浜小学校見学	… <u>荒浜小スタッフとの出会い</u>
		*校舎内の見学，質疑応答，お礼の言葉
11：30	荒浜小学校発	

(3) 子どもたちに出合わせたい「ひと・もの・こと」～実地踏査の所感，予想される子どもの問い

(実施踏査日：平成30年7月11日)

①深沼海水浴場

堤防を登ると広大な太平洋が目飛び込んでくる。仙台市唯一の海水浴場だが，震災の影響で現在は閉鎖中である。山口県出身の私は瀬戸内海を見て育ったせいか，平時でも波の勢いが強いのに驚いた。訪れていた人に話を聞くと，サーフィンをするのに適している波らしく，多くの海水浴客，サーファーで賑わっていたらしい。遊泳は「ご遠慮ください」となっているものの，この日もサーファーが一人，二つの家族が海水浴を楽しんでいた。



【予想される子どもの問い】

- ・波の勢いが強いな。津波はどれほどの勢いだったのだろう？
- ・遊んでいる人は怖くないのかな？危なくないのかな？

②荒浜慈聖観音，八大龍王神社

海水浴場のそばには東日本大震災の慰霊碑，慰霊之塔と共に荒浜慈聖観音が建てられている。観音像の高さは土台も含めて約9メートル，これは荒浜地区を襲った津波が陸地に侵入した時の高さだという。慰霊碑には亡くなられた方々が住んでいた地区，お名前，年齢が記されている。高齢の方が多いという印象だったが，まだ幼いお子さんも含まれていた。「190人(荒浜地区，七郷地区の犠牲者の数)」という数だけでは感じられない思いが湧いてくる。



また，地元の方々が漁や航海の安全を祈願した八大龍王神社は，現在は社や小さな賽銭箱が置かれていた。訪れたのが月命日だったからか，8人の女性の方が海に向かってお経を上げていた。



【予想される子どもの問い】

- ・観音様を津波の高さと同じにしたのはどうしてなのかな？
- ・亡くなられた方にはお年寄りの方が多かったのかな？
逃げるのができなかったのかな？
- ・お経を唱えているのは家族の方かな？いつも唱えているのかな？



③モニュメント「荒浜の鐘」，植樹されたクロマツの木

モニュメント「荒浜の鐘」を鳴らして手を合わせていらっしゃる方が数人いらっしゃった。石碑に記された「13.7m」は津波の最高到達点の高さだという。県外から来られた方もいるようだった。

また，海岸周辺には，まだ背の低いクロマツの木が何本も植えられていた。林野庁が中心となり，海岸防災林の再生事業に取り組んでいるのだという【*1】。今はまばらになってしまった海岸防災林だが，この幼木が成長する頃には，深沼海岸の風景もまた大きく変わっているのだろうと思う。



【予想される子どもの問い】

- ・今もいろいろなところから、お祈りに来られる方がいるのかな。
- ・クロマツの木が成長するのには、どのくらいかかるのかな？お世話は誰がしているのかな？

④住宅基礎遺構，里海荒浜ロッジ

海岸のそばには、津波によって流された住宅の基礎部分，土地の変形の様子が残され，今後整備される。【*2・编者注：2019年8月2日より「震災遺構 仙台市荒浜地区住宅基礎」として公開】

里海荒浜ロッジは「荒浜再生を願う会」の中心となった貴田喜一さんが自宅跡地に建てたもの。貴田さんらは市の「災害危険区域」指定に反対，現地での再建を望み，その活動の拠点としてこのロッジを建てた。会は2019年6月を以て解散することになったが，今もここを拠点に海岸清掃などのイベントが行われている。また，貴田さんの他にも荒浜地区を盛り上げようと活動を続けていらっしゃる方がいる



ようだ【*3】。ロッジの側には、「会えなくなった人」と対話するための電話ボックスやポスト，「お休み中」のバス乗り場が設置されていた。これらから，子どもたちは何を感じ取るだろうか。



【予想される子どもの問い】

- ・ここに住んでいた人は，今，どうしているのかな？
- ・もうここには住めないのかな？
- ・誰がこのロッジを建てたのかな？どうして海の側に建てたのかな？
- ・どうして「偽物」の電話ボックスやポストを置いたのかな？
- ・もうバスは来ないのに，バス停があるのはどうしてなのかな？

⑤貞山堀，モニュメント「荒浜の歴史」

「荒浜の歴史」には震災前後の荒浜地区と貞山堀を比較する写真が掲載されている。今はほとんど何も残っていないが，震災前は堀の両側に多くの家々が立ち並んでいた。

この日，深沼橋で釣りをしている男性と出会った。この方は荒浜地区出身ではなかったが，親しい友人が堀の側に住んでいらしたそうで，震災から7年が過ぎ，最近になってようやく釣りをしに来ることができるようになったのだという。貞山堀はハゼがよく釣れる穴場だそうで，ちょうどお話ししている間にも1匹かかり，私が糸を巻かせてもらった。この方からは，「昔，男の子たちは橋の上から堀に飛び込み，度胸試しをした」というお話もうかがった。ここは，地区の子どもたちにとって大切な遊び場だったようだ。



【予想される子どもの問い】

- ・家を失った方はどんな気持ちだったんだろう？
- ・ここで魚釣りができるんだ。どんな魚がいるのかな？
- ・ここから飛び込むなんてすごいな。荒浜小の子どもたちもここで遊んだのかな？

⑥浄土寺

荒浜小学校発祥の地でもある浄土寺。津波に襲われ、当時の建物はほとんど残っていない。現在は元々の場所から2キロメートルほど内陸に新しい本堂が建っており、行き帰りのバスの車窓からも見ることができる。また、今回の津波のため荒浜地区で亡くなった186人のうち135人が浄土寺の檀信徒だったという【*4】。



境内には東日本大震災の慰霊碑と並んで、「昭和十五年 七月 海難横死者萬霊供養」と記された慰霊碑が建っている。漁業が盛んなこの地では、今回の津波に限らず海難事故で亡くなられた方が多くいたことがうかがえる。



【予想される子どもの問い】

- ・このお寺が「荒浜小学校発祥の地」とは、どういうことだろう？
- ・古い慰霊碑は誰のために、何のために建てられたものだろう？
- ・ここにあったお寺やお墓は、今どこにあるのかな？

⑦荒浜小学校

震災当日、荒浜小学校には児童、教職員、住民ら320人が避難した。地震発生直後から多くの住民が学校へ避難してきたが【*5】、混乱のさなかにあっても七学年部を中心とした受け入れ体制の構築や、各教室に町内会ごとに分かれての避難などが行われたのは、学校と地域が協同しての避難訓練の積み重ねがあったからであろう。また、荒浜小学校の先生方が震災前に避難計画を見直し、体育館を避難場所としなかったこと、非常用物資を倉庫から校舎上層階に移動させていたことなどは、私たちの教訓としなくてはならない。



津波は校舎の2階まで押し寄せた。せり上がった天井や折れ曲がったベランダの鉄柵は、津波の勢いの強さを教えてくれる。地震発生時の子どもたちの様子や、その後の避難の様子について知りたがるだろう。しかし、深沼海水浴場や貞山掘などを見学してきたので、地域と子どもたちとの関わりについても注目する子もいるかもしれない。



【予想される子どもの問い】

- ・すごい津波が来て、子どもたちは怖かっただろうな。
どのように避難したのかな？
- ・荒浜小が使えなくなって、学校生活はどうなったのかな？
- ・荒浜小の子どもたちも海水浴場や貞山掘で遊んだのかな？
- ・荒浜小の子どもたちは、今はどうしているのかな？

*現地学習後、荒浜地区の歴史や震災以前の生活の様子に関心を持つ子供がいると考えられる。その場合、帰校後に『イナサ 風と向き合う集落の四季 (NHK 仙台放送局制作 2006年)』や『荒浜小学校 思い出の映像』などの映像資料を提示する。いずれも荒浜小学校の資料室で視聴できるものだが、当日は時間を十分に確保することが難しいため学校で視聴することとする。

5 参考文献

- 【* 1】林野庁東北森林管理局 『海岸防災林の再生 平成 23 年東北地方太平洋沖地震巨大津波による被害と復旧』 2014 年
- 【* 2】仙台市ホームページ 『仙台市の遺構保存（検討経過など）』
<http://www.city.sendai.jp/fukko-jigyo/shise/daishinsai/fukko/ikohozon.html>
(最終閲覧日：2019 年 10 月 19 日)
- 【* 3】『朝日新聞デジタル・宮城版』2018 年 6 月 28 日付 「仙台・荒浜『再生を願う会』, 今月末解散」
(筆・編集委員：石橋英昭)
<http://www.asahi.com/area/miyagi/articles/MTW20180628041050001.html>
(最終閲覧日：2019 年 10 月 19 日)
- 【* 4】『浄土宗総本山知恩院ホームページ』 「～東日本大震災から 5 年～地域社会と共に歩む復興への道」 <https://www.chion-in.or.jp/kacho/506/>
(最終閲覧日：2019 年 10 月 19 日)
- 【* 5】震災遺構 仙台市立荒浜小学校 施設パンフレット